

# ポートフォリオ型ワークシートを用いた製作学習過程の把握

## — 小学校・衣生活分野を中心に —

伊波富久美\*<sup>1</sup> 今村愛実\*<sup>2</sup> 宮本由宇\*<sup>3</sup> 佐藤茜\*<sup>2</sup> 大矢英世\*<sup>4</sup> 藤本明弘\*<sup>4</sup>

### Understanding the Production Learning Process by Using Portfolio-type Worksheets

#### :Focusing on the Field of Clothing in Elementary School

Fukumi IHA\*<sup>1</sup>, Manami IMAMURA\*<sup>2</sup>, Yu MIYAMOTO\*<sup>3</sup>,  
Akane SATO\*<sup>2</sup>, Hideyo OYA\*<sup>4</sup> and Akihiro FUJIMOTO\*<sup>4</sup>

#### I . 研究の背景および目的

児童・生徒の学習過程を把握・評価するために、ポートフォリオの作成・活用が多くの教科で進められている<sup>注1)</sup>。家庭科においては、自らの学びの過程を把握できるポートフォリオ型ワークシート（以下、P型シートと表記）を開発し、その有効性について検討してきた<sup>12)</sup>。その結果、中、高校での有効性が示されるとともに、小・中・高校の連携におけるP型シートの可能性が示唆されたが、製作における学習過程の把握については、まだ十分に検討されていない。他方、小学校・衣生活分野の製作学習は、活動中心の授業となる傾向が強く、製作学習の“自分にとっての意味”に意識を向けた学びにしていく必要がある。

そこで本研究ではまず、小学校での布袋の製作学習において、知識・技能の習得のみならず、学習対象である製作活動を自分の問題として捉え、“製作が自分にとって、どのような意味を持つのか”製作目的を意識化できる題材を構想した。その題材において資料1に示したP型シートを用いて、製作活動における学びの過程を教師の働きかけとの関連で把握し、授業改善に向けた課題及び今後の中学校との連携上の課題について明らかにすることを目的とした。

#### II . 研究内容及び方法

1. 小学校の衣生活分野において、全9時間の題材「世界に1つだけのマイバッグ～生活を豊かにソーイング～」を構成し、2024年1月に6年生1クラス33名（男子16名、女子17名）を対象に授業を実施した。
2. 当該授業をビデオ撮影して記録するとともに、児童が記入し分析可能であった25名分のP型シート（授業者が一部改編）について、授業開始の第1時と製作活動に入る第4時及び題材の最終時にあたる第9時の記述内容の分析を行った。

---

\*1 宮崎大学大学院教育学研究科 \*2 宮崎大学教育学部附属小学校 \*3 宮崎大学教育学部附属中学校  
\*4 宮崎大学教育学部

## 資料 1：本題材でのポートフォリオ型ワークシート

【表面】

【裏面】

\* 授業者により一部改編

【表面】

【裏面】

## Ⅲ．研究の成果と課題

## 1. 製作学習の授業構想と学びの過程

家庭科での学びは、図1に示したように、対象の把握が曖昧な「即自」の状態から、他者との相互作用の過程である「対他」を経て、自分にとっての意味が確定される「対自」に至る過程を繰り返していくことで深まっていく<sup>3)</sup>。その過程は、題材全体を通して、題材を構成する各授業時間においても生じ得るため、本研究では、資料2に示した全9時間の題材を構成し、分析対象とした。

まず、「生み出す」段階の第1時において、授業開始当初にP型シートの表面[A. 学習を始めるにあたって]の「Q. どうして製作をするのだろうか」という問いに記入させた。これにより自らの対象把握の曖昧さや、対象を捉える視野の狭さを意識化させ、「即自」の状態に向き合わせる事が可能になる。

例えば、自分が使っているにもかかわらず、布袋は「物が入ればどのような袋でも構わない」といった袋の形や大きさ、素材などに対する関心の低さや、布袋を日常的に使ってはいても、自分には関わりのない物といった意識、自分が入れたい物と袋の大きさの関係などについて無頓着な状況などである。そのような状況にある自分自身をP型シートの問いに記入することで意識化できるようにした。

その上で、自分の身近にある袋は、形や大きさ、素材がさまざまであることを観察させ、自分を入れようとする物と袋の形や大きさ、素材との関係を吟味させることで、「自分の目的に合った布袋」の製作という視点を明確にさせようとした。

その後「挑む」段階で、自分の目的にあった形や大きさの布袋の製作活動に入った。第2、3時では、子どもたちが日常的に使用している布袋を持参し観察することで、各々が使用している状況に目を向けた上で、それらの形や大きさや素材の良さや問題点を相互に確認した。さ

らに、“実際に使いたい場面”や“自分が入りたい物”を決定する場を設定することで、「自分の目的に合った布袋」とはどのような形や大きさなのか具体的にイメージできるようにした。

そして第4時で、各自入りたい物を持ち寄せ、他者とともに関係を意識できるように、入りたい物に実際に新聞紙を当て、ホッチキスで留める活動を行った。袋の製作に必要な布の大きさについて試行錯誤しながら考えられるよう、教師は多くの新聞紙を準備するとともに、短時間で作業ができるよう仮留めとしてホッチキスを用いている。

製作活動後の第9時「生かす」段階では、製作した布袋の使用後の考察や自らの学びの振り返りを行う場を設定した。その際、再度、授業開始時と同様の「どうして製作をするのだろうか」という問い（P型シートの表面B）について記入させ、開始時に自らが記述した内容との比較を行わせた。

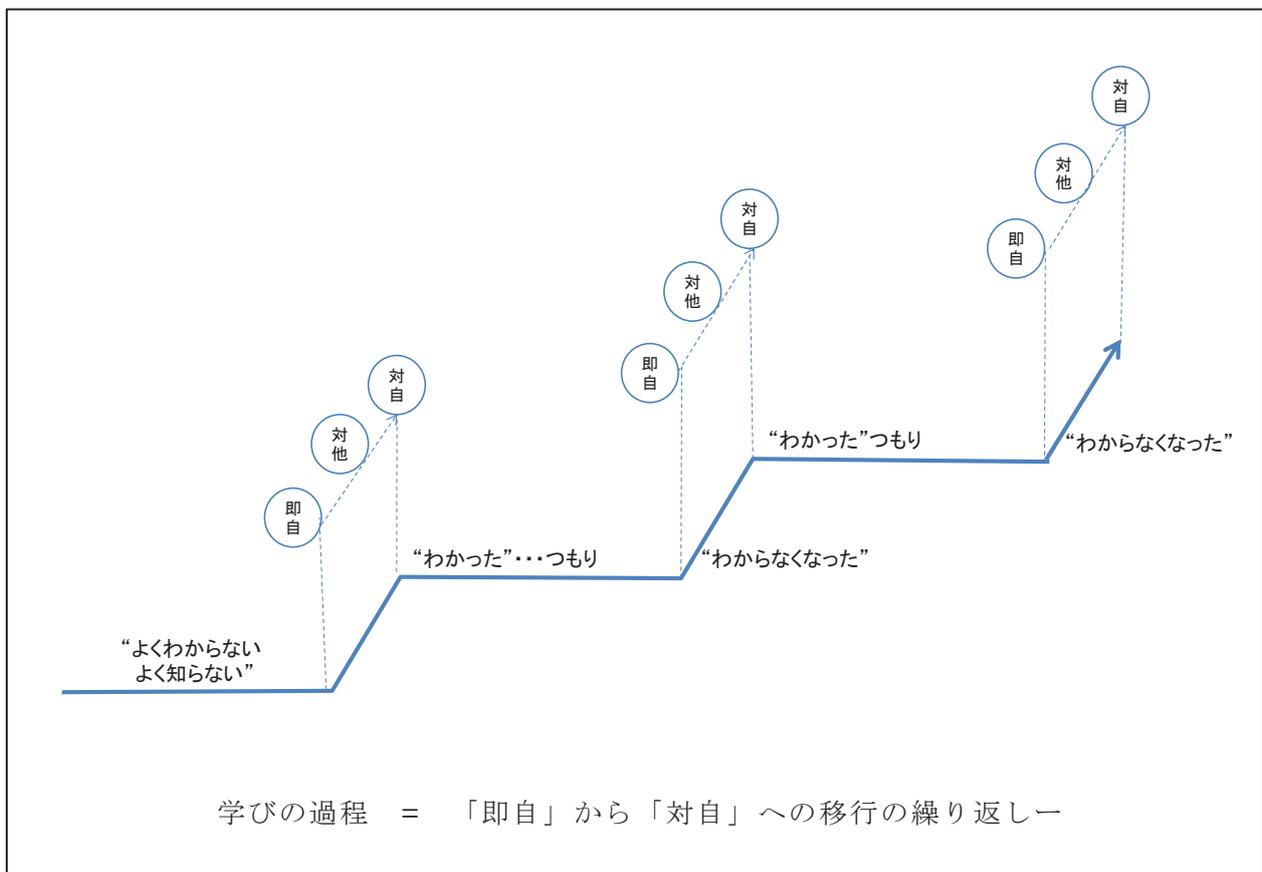


図1：学びの過程<sup>注2,3)</sup>

資料 2：題材の指導計画（全 9 時間）

階	主な学習活動及び学習内容	「自律的に学ぶ」ための手立て	知・技	目・手・足	態
生 み 出 す (1)	1 身近にある布袋を見つめ直し、 題材を貫く課題を設定する。 〈1 時間〉 ○ 身近にある布袋のよさ ○ 題材を貫く課題の設定  (例) 自分の目的に合った布袋に するために、工夫したい。	○ 「物が入ればどのような布袋でもよい。」や、「可愛い 布袋がよい。」等の本音を基に、身近にある布袋を観察 させることで、形や大きさが様々であることよきに目 を向けることができるようにする。 ○ 「何のために製作をするのですか。」と問い、考えさ せることで、「考えたことなかったな。」「便利に過ごす ため？」といった無意識に過ごしていたことを見つめる ことができるようにする。			①
					記述分析
挑 む (7)	2 布袋には目的に合った形や大き さがあることを理解する。 〈1 時間〉 ○ 形や大きさの理由	○ 子どもが日常的に使っている布袋を観察しながら特 徴や、よいところについて紹介し合う活動を取り入れる ことで、目的に応じて形や大きさが異なることを理解 し、製作計画に生かすことができるようにする。			①
	3 自分の目的に合った布袋を考え 製作計画を立てる。〈3 時間〉 ○ 布袋に入れる物 (1) ・ 本、財布、筆箱 等	○ 実際に使いたい場面や入れたい物を決定する場を設 定することで、「自分の目的に合った布袋をつくりた い。」という思いをもつことができるようにする。 ○ 「あなたの目的に合った布袋とはどのようなもので すか。」と問い、考えさせることで、自分の目的に合った 布袋のイメージが曖昧な状態であることを見つめるこ とができるようにする。			②
	4 自分の目的に合った布袋製作を 行う。〈3 時間〉 ○ 製作	○ 入れたいものとぴったりと合う大きさを計画してい る布袋を製作したものを提示し、実際に物を出し入れし てみることで、使いにくさに気付き、形や大きさを見直 したいという思いをもつことができるようにする。			②
					記述分析 発言分析
					行動分析
生 か す (1)	5 製作した布袋を使ってみて気付 いたことや感じたことを発表し、 製作する意味を考える。〈1 時間〉 ○ ふりかえり ○ 製作の意味	○ 製作した布袋を使ってみた感想や、製作をするよさに ついて仲間と対話する場を設定した後に、「何のために 製作をするのですか。」と問い、考えさせることで、製 作のよさを吟味することができるようにする。			②
					①
					記述分析 作品分析

## 2. 製作学習に対する“即自”の状況

第1時、授業開始当初の「どうして製作をするのだろう」(P型シート表面のA)という問いに対して、児童は資料3の記述をしていた。(以下、児童に付した番号は整理番号であり、下線等は筆者による)

児童6は「おさいふへの負担を軽くするため」、児童27は「お金の削減」、児童31は「買うと高いから」、あるいは「こわれたときに治したりできるから?」(児童26)、「しょう来に向けて安くするため」(児童20)といった実用性を挙げていた。また、児童4は「わからない」、児童9は「考えたことはありません」としている。教師が「製作をする」と示したから、あるいは教科書に載っているから製作を行うという学習への向かい方になっていて、何のために製作をするのか考えられていない状況が懸念された。

一方、児童2の「自分の好みのものを 製作するため」や児童8の「自分に あったものを作るため」のように学習対象と自分との関係に言及した記述は、25名中16名見られた。とりわけ「自分好みのものを作れる」、「自分のオリジナルなものを作れる」を11名があげていたが、その多くは製作を好き嫌いといった自分の好みやオリジナリティを反映させる活動と捉え、自分が生活する上で製作がどのように関わっているのかという視点からどれほど捉えられているかは不明であった。また「自分に合った」とは記述しているものの、「自分に合った思い出に残るものにするため」（児童25）のように、この段階ではまだ自分が布袋を使う状況や自分が入れる物と布袋との関係まで具体的なイメージを持っていないことが推察された。

以上のように学習開始以前の段階では、自分と製作との関わりを意識できていない、あるいは漠然と捉えるにとどまるといった“即自”の状態にあった。

資料3：授業開始当初の記述内容（P型シート【表面】A）

	Q. どうして製作をするのだろう（P型シート表面A）
1	生活の中で製作できるようになると時間を持て余したときに、よいひまつぶしになるから
2	自分の好みのものを 製作するため
4	わからない
6	おさいふへの負担を 軽くするため
8	自分に あったものを作るため
9	考えたことがありません
11	思いがこもったものには、あたたかさがあるから。自分に合ったものを作るため
12	世界に1つだけのものを作ることで、使って楽しい気分になるから
13	自分で作ると好きなように作れるから
14	しょうらいのためや自分で作ると、世界に1つだけの自分のオリジナルが作れる から
16	好きなものを見つけるため
18	そのものが必要だから、自分の好みのものが欲しいから。
19	作ることでよりその作ったものに愛着がわくから
20	しょう来に向けて安くするため。
21	自分に合ったものを（使いやすいもの）
22	自分好みにするため。ポケットとか糸と布の色とか大きさとか形とか
24	特にはありません。
25	自分に合った思い出に残るものにするため。
26	こわれたときに治したりできるから？
27	お金の削減 気持ちがよりこもっている？
28	自分好みのおしゃれなやつが作れるから。
29	便利に生活するため。
30	自分だけの世界に1つだけのオリジナルのものができあがるから
31	買うと高いから あと、好きなガラがないから
32	自分の好みのものにデザインするため。費用を安くするため

\* 資料中の網掛け等は筆者による（以下、同様）

### 3. 製作学習における“対他”の過程

P型シート（裏面）の各授業終了後の記述欄は、学習者が“学んだ”とする内容を把握できるとともに、教師が“指導した”とする内容とのズレの把握も容易にする意図で、「本時の私のキーワード」と「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」で構成されている。それらの齟齬の把握によって、次時の授業改善につなげることができるだけでなく、次の学校種（本実践では中学校に相当）の教師も、学習の実態を把握することができるようになり、小・中・高校の連携が円滑に進められることが期待される<sup>4)</sup>。

#### (1) 視野の拡大と吟味

第1時では児童に普段、何気なく目にしている、あるいは自らが使っている袋を観察させ、袋が多様な用途で使われ、形や大きさ、素材なども様々であることに着目させた。それにより、布袋への関心を高め、それを捉える視点を広げ、製作学習が技能の習得のみに終わらぬことを目指した。

第1時が終了した段階では、資料4(P型シート裏面「1」)の記述が見られた。「本時の私のキーワード」では、授業開始当初に11名が記述していた「自分好み」への言及が5名に減少していた。また、「自分に合った」を6名が記述していた。

一方で「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」として、「使いやすさ」へ8名が言及していた。児童22は「今日は、バックをどんなところで使うか、何を入れるかなどを考えて、これからと、目標を決めました。」、児童27も「大きすぎても小さすぎても使いにくいから、自分に合った大きさや場所、場合によって、バックの大きさを変えていきたい。」と記述していた。それらの記述に見られるように、自分の好き嫌いに留まらず、自分の生活との関わりや用途に照らして学習対象を捉えようとしていた。

また、児童1の「・・・他の人の意見を聞くと、「確かに！」と納得するところがあり、・・・」や児童21の「私は、いつも気分だったり、服に合わせたりして、バックを選んでいましたが、みんなの選び方は、同じものもあれば、ちがうものもありました。一度、みんなの選び方をして自分に合ったバックを見つけたいです。」のように、他者への言及も6名にみられた。他者の意見やバックの使い方を参考にしながら、袋に対する視点を広げていた。

以上のように本時では、袋を観察し、他者と意見を交換することを通して、この授業でねらっていた布袋と自分との関わりを意識するようになり、多くの児童が視野を広げていったことが「本時の私のキーワード」と「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」から読み取ることができた。

これを次の製作活動に入る段階では、自分が入りたい物と布袋との具体的な関係を検討することを通して、より自分の問題として学習対象を捉えられるような授業展開とした。

資料4：第1時終了後の記述内容（P型シート【裏面】）

	本日のキーワード	「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」（P型シート裏面）
1	マイバック	ぼくのバックに、ぼくは不満を持っていませんでした。しかし、他の人の意見を聞くと、「確かに！」と納得するところがあり、不満が増えました。しかし、それは悪いことではなく、授業を深めるのに役立ちました。次も楽しみです。
2	今の自分のバック	自分のバックのこだわりや好きな素材のことを考えて目標を立てました。
4	選び方	バックを選ぶ理由はなかったけれど、授業を通して、デザインにこだわってみようと言う気持ちが出てきました。
6	〇〇に合ったバック	自分の持つそのバックは必ずその時によって合っているものでなければいけません。製作の時間は〇〇にあった100%のバックを作りたいです。
8	自分に合った	バランスの良い自分の用途に合わせたバックが大切。
9	自分好みのバック	自分がバックを選ぶときに大切にしていることを意識して、自分好みのバックを自分で製作したいと思いました。ポケットをたくさんつけて使いやすさを大切にしたいです。
11	自分好み	先生は、みんな「おそろいにしよう」と言っていたけれど、みんなそれぞれこだわりがあるので、おそろいにならない代わりに最高のバッグを作ろうと思いました。
12	私のバック	今、使っているバックはたくさんあるけれど、完ぺきなバックはないので、今回はこだわった自分だけのオリジナルバックを作りたいと思った。
13	自分に合うもの	私は自分が使いやすい(どこでも使える)ものを作りたいです。
14	自分に合った	自分に合うバッグを作ると、ずっと使いそうなので、自分に合ったバッグを作りたいです。
16	こだわり	先生は、みんな「おそろいにしよう」と言っていたけれど、みんなそれぞれこだわりがあるので、おそろいにならない代わりに最高のバッグを作ろうと思いました。
18	自分好み	がら、大きさ、使いやすさが自分好みのバックを作りたい。きれいにぬいたい。
19	自分好み	今日私は、これからの学習で「どんなバッグ」にしたいかや好み、使いやすさなどを考えながら作っていきなうと思いました。
20	バッグ	自分の持っているバックのことを考えたときに、僕は大きさ、色、実用性の3つを大切にしているのだと気づきました。
21	ポイント	私は、いつも気分だったり、服に合わせてたりして、バックを選んでいましたが、みんなの選び方は、同じものもあれば、ちがうものもありました。一度、みんなの選び方を <u>して自分に合ったバックを見つけたいです。</u>
22	自分好み	今日は、バックをどんなところで使うか、何を入れるかななどを考えて、これからと、目標を決めました。
24	なし	なし。
25	自分に合ったバックって？	自分のバックを使い分けて、日ごろから使っています。だけど、自分が使いやすいと思うバックはそれぞれ違っていたので、今回作るバックは、自分に合ったものが作れるといいです。
26	大切なことは・・・？	1人1人、バックを使うにあたって、大切なことがあるんだなと思いました。私は丈夫でシンプル、コンパクトなバックを作りたいです。
27	自分に合った大きさ	大きすぎても小さすぎても使いにくいから、自分に合った大きさや場所、場合によって、バックの大きさを変えていきたい。
28	大きさ大事	物を入れるとすぐにパンパンになってしまうバック・はみ出してしまうバックは作らない。ものが多く運びやすいバックを作る。
29	身軽さ	私がバックを作るにあたって大切にしたい事は身軽さです。できるだけ使いやすくして、理想のバックに近づけていきたいです。
30	自分だけのバック	自分だけの使いやすいバックをこれからミシンを使って、作ってきたいです。
31	理想のバック	私はある程度のものが入ればいいので、自分の好きなサイズで作りたい。
32	使いやすさ	私は、あまりバッグに使いやすさを求めていなかったのですが、今回の学習でバックの利点などを改めて知りました。

## (2) 学習対象と自らの生活との具体的な関わりの意識化

第4時の指導過程を資料5に示した。第4時では、単に製作に関する知識・技能の習得や好みの問題にとどまらず、自分が布袋に入りたい物と、布袋の形や大きさと具体的な関わりに目を向け、そこでの各自の課題をふまえた上で、製作につなげていくことを目指した。

資料5：第4時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 つくりたい布袋についての思いを共有し、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ つくりたい布袋           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊びに行くときに、財布やシール帳が入る鞆をつくりたい。」</li> <li>・「塾に行くときに、たくさんの参考書が入る丈夫な鞆をつくりたい。」</li> </ul> </li> <li>○ 本時のめあて           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             自分の目的に合った布袋の形や大きさを決定しよう。           </div> </li> </ul> <p>2 自分の目的に合った布袋の形や大きさを決定し、ゆとりの必要性について全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の目的に合った布袋の形や大きさ</li> <li>○ ゆとりの必要性（使いやすさ）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆとりがないと使いにくいな。」</li> <li>・「ゆとりがあると取り出しやすいな。」</li> </ul> </li> </ul> <p>3 自分の目的に合った布袋の大きさを見直し、仲間とアドバイスをし合いながら、再決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仲間との対話（例）           <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>A「僕は本を入りたいんだけど、この大きさはどうだろう。」</p> <p>B「私だったら本があまり動かないような大きさにしたいから、もう少し小さくするよ。でも出し入れしやすい方がいいね。」</p> <p>A「Bさんはどうして、本があまり動かない方がいいと思うの？」</p> </div> </li> <li>○ 再決定</li> </ul> <p>4 再決定した布袋の形や大きさとその理由について考え、仲間に伝える。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 再決定した布袋の形や大きさとその理由           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕は本を入りたいです。ゆとりをとることで、出し入れがしやすくなるから本より、一回り大きい布袋をつくりたいです。」</li> </ul> </li> </ul> <p>5 本時のふりかえりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のふりかえり           <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の目的に合った布袋は本がぴったり入るものと思っていたが、取り出しやすくなることも大切だと分かった。」</li> </ul> <p>〈学び方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞紙を使って実際に折ったりすると、完成の大きさがイメージしやすくてよかった。」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「全員がこの大きさにしましょう。全員の入れたいものが入るサイズですね。」と子どもの思いを制限する提案をすることで、自分に合った布袋の形や大きさにしたいという思いをもつことができるようにする。</li> <li>○ めあてを設定した後に「あなたの目的に合った布袋とはどのようなものですか。」と問い、考えさせることで、自分の目的に合った布袋のイメージが曖昧な状態であることに目を向けることができるようにする。</li> <li>○ 入れたいものにぴったりと合う形や大きさにしている子どもが多いことが予想されるため、家庭から実際に入れたい物を持って来させておくことで、布袋の具体的な大きさを考えることができるようにする。</li> <li>○ 入れたいものとぴったりと合う形や大きさを決定している布袋を提示し、実際に物を出し入れしてみることで、使いにくさに気づき、大きさを見直したいという思いをもつことができるようにする。</li> <li>○ 仲間とアドバイスをし合う前に「2」で出た、「使いやすさ」という視点を確認することで、相手の立場に立ちながらより使いやすい形や大きさについて考えることができるようにする。</li> <li>○ 途中で困っている子どもがいた場合には、困っていることについて全体で共有し、アドバイスし合う場を設けることで、目的に合った布袋の形や大きさを考えることができるようにする。</li> <li>○ 「あなたの目的に合った布袋とはどのようなものですか。」と再度問い、考えさせることで、「2」や「3」を基に、自分の目的に合った布袋について吟味することができるようにする。</li> <li>○ 内容のふりかえりだけではなく、学び方のふりかえりを行うことで、これからの自分に合った学び方について考えることができるようにする。</li> </ul>

自分が入れたいと思っている“物の大きさ”に意識を向け、それを自由に包むことができる素材として新聞紙を用いて、布袋の大きさとの関係を考えられるようにするとともに、ゆとりや縫い代にも着目できるようにした。

ここでは型紙を用いた製作方法の習得を目指して、型紙の代わりに新聞紙を用いたのではなく、一連の活動の結果として、児童が製作を進める際の“型紙”に新聞紙がなるよう授業を展開した。一般的な製作指導や教材キットを用いた授業においては、すでに型紙が用意されていて、それを布の上に置いてしるしを付け裁断するところから活動が開始されることが多いが、本授業では意図的に、児童が入れたいと思っている物に新聞紙を当てる時間を設定し、自分が入れたい物の形や大きさを意識化させ、他者と共に、それを包むものの妥当性を吟味する場を設けることで、製作学習を自分に引き寄せて捉えられるようになることを意図した。

通常の製作学習においては、製作自体（作ることのみ）にとらわれている児童が多く見られる。第4時においても、単に製作自体やゆとりへの着目に留まった記述が一部に見られた（児童1、24）ものの、下記のように、製作のみへの着目に留まらない、自らにとっての製作学習の意味に児童が目を向けていたことを P 型シートへの記入内容から授業後、容易に把握することができた。

第4時終了後の記述は、資料6の通りである。「本日の私のキーワード」をみると、記述していた児童22名のうち、9名が「大きさ」に、3名が「型紙」に言及し、「まち」について記述している児童もみられた。自分の入れたい物が入る袋を作ろうと、どの児童も自分が入れたい物に新聞紙を当ててみる学習活動に意欲的に取り組んでおり、それはビデオ記録からも確認できた。実際に新聞紙を型紙に見立てる活動で、児童にとっては両者の関係性が際立ってきたといえよう。

また、「入らない・・・」（児童8）、「少し大きめで」（児童16）、「もう一回チャンス！」（児童26）と自己の学習活動を振り返って自分のキーワードとしている児童も見られた。

さらに「本日の私のキーワード」との関連で、「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」には次の記述を見ることができた。

#### ○対象把握の具体性

「本日の私のキーワード」に「大きさ」と記述していた児童30は「私にとって入れるものよりも5cm大きいのがちょうど良く使いやすそうだった。」と記述し、児童18も「型を作る時、四角のバックを作りたいので、横もたても、余分に作るのを忘れていたので、次は余分に10cmくらい取りたいです。」とゆとりを意識しながら寸法を具体的に記していた。入れたい物に新聞紙を実際に当ててみたことで、自分にとって使いやすい大きさとどのくらいなのか、漠然とではなく具体的に学習対象を把握し、その寸法に言及していたといえる。

#### ○自己の課題の振り返り

児童9は「今回、私は、これまでバックにギリギリで入らなかったノートを入れるために、マチを作って、ノートより少し大きいサイズを新聞紙で作り、高さも含めたピッタリなサイズの形と大きさを決定できました。」と記述し、自分がこれまでの生活の中で課題と感じていたことを振り返りながら、自分にとって使いやすくなるよう“まち”に着目して大きさを決めていた。

他方、児童28は、「教科書を入れてぴったりじゃなければ良いだろうと思っていたけど、水筒の厚さがあつてうまく入らなかったので、今度は厚さとたてと横を考えて作るぞ。」と本時の自己の学習活動を反省的に捉え、自分の問題として学習対象を身近に引き寄せていたといえよう。

### ○妥当性についての吟味

児童27は「本日の私のキーワード」に「入れる物で変える」と記入した上で「バックに入れるものによってバックの大きさや、形などが決まってくることがわかりました。」と記述し、児童2も「それぞれ、バックに入れたいものが違えば、大きさも変わってくるから、マチをつけて少しだけ大きく見えるようなバックを作ることにしました。」と記述していた。また児童31は「でかすぎてもだめ、小さすぎてもダメ、もっと自分に合ったバックに改ざうしていきたい!」とし、児童26も「私は、物の出し入れがしやすいように大きめにしたけど、ブカブカすぎるので、少し小さくしようかなと思いました。」としていた。

自分が入れたい物や出し入れの状況と、袋との関係で袋の大きさの妥当性について吟味していたといえる。各自が入れたい物を持ち寄り、それに適した大きさを新聞紙を用いて決定しようと試行錯誤できる場を設定したからこそ、またそこでは他者の様子も観察可能であったからこそ、“入れたい物が違えば必要とされる大きさも異なってくる”という関係の多様性が顕在化した。その多様性に目を向け、それらの関係性について他者の立場にも立って他者の視点からも具体的に吟味することができ、その上で自らにとって適切な大きさとはどのような大きさであり、取り出しやすくするためにどうすれば良いのか、例えば“まちを付ける”などについて具体的な考察が可能になっていた。

以上、児童たちは自分の生活を振り返り、対象を具体的に捉え、自分が使うものや自分の用途との関わりで袋を捉えようとしていた。そこでは、単に製作するだけでなく、児童14の「私は、妹に作るの、大きすぎると持つのが大変になるので、大きさをしっかり考えて作りました。」のように、何のために作るのか、どのように作るのか、自分の思いや願いを持つことができたのではなかろうか。製作が“自分にとってどのような意味”を持つのかそれぞれが見つけていたのではないかと推察される。

それが児童29の「私は始め、まちのことを考えていなかったのが原因で、少し高さが短くなってしまいました。本番はあと少しだけ、たてを高くしたいです。」の記述のように、次の製作段階への意欲と方向性を持つことにつながったのではなかろうか。

## 4. 題材を通した児童の変容

教師は題材の全9時間を通して、児童が自分や自分の生活の営みにとって布袋の製作がどのような意味を持つものであるのか、自分の問題として捉え製作に向かえるよう、常に配慮しながら授業を行った。

第1時では、袋の製作活動にすぐ入るのではなく、まず、自分の生活の中には様々な袋があり、それらは個々の生活の様々な場面でどのように活用されているか、活用しやすい形になっているのかに目を向ける場を設定した。その上で、各々の状況におけるバックの長短の吟味を通して、自分の生活にとっての製作の意味や価値に気付けるようにした。そしてそのようなものを自分もこれから実際に作れる!作りたい!という思いにつないでいった。

第4時の製作活動に入った段階でも、単に指示された通りに袋の形や製作に必要な布の大きさを決めるのではなく、入れたい物と具体的に対峙することで、自分にとって必要な製作、意味のある製作として展開されるよう配慮していた。

## 資料6：第4時終了後の記述内容（P型シート【裏面】）

	本日のキーワード	「特に大切だと思ったこと、印象に残ったこと」（P型シート裏面）
1	マイ（仮）バック	作るのが楽しかったけれど、公開研究会のことを忘れていました。しかし、完成しなかったので、次も頑張りたいです。
2	自分に合ったバック	それぞれ、バックに入れたいものが違えば、大きさも変わってくるから、マチをつけて少しだけ大きく見えるようなバックを作ることになりました。
4	欠席	欠席
6	間取り（ゆとり）	入れる物のギリギリをせめるのではなく、少しゆゆうを持った大きさにするようにしました。容量も少し大きめにしました。途中でトラブルがあったけど、結果オーライでした。
8	入らない…	大きめに作り、余裕を持たせることが大切
9	形と大きさ	今回、私は、これまでバックにギリギリで入らなかったノートを入れるために、マチを作って、ノートより少し大きいサイズを新聞紙で作り、高さも含めたピッタリなサイズの形と大きさを決定できました。
11	欠席	欠席
12	形紙づくり	形紙づくりは、思ったより難しかったです。大きさにこだわって作って、自分が使いやすいようにできました。
13	形	私は、横長にしようとしていたけれど、縦の方が便利そうだったので、横からたてにしました
14	大きさを考えて	私は、妹に作るのでも、大きすぎると持つのが大変になるので、大きさをしっかり考えて作りました
16	少し大きめで	一回り大きめで、1度作ってみると、ギリギリで入ったので、もっと大きめのバックにしたい
18	型	型を作る時、四角のバックを作りたいので、横もたても、余分に作るのを忘れていたので、次は余分に10cmくらい取りたいです。
19	大きさ	私は今日2つしか持ってこなかったで、小さいバックを作る予定だったけれど、先を考えて少し大きめにしました。
20	欠席	欠席
21	大きさ	私は、自分に合った大きさを作ろうと思ったけれど、ぜんぜん上手にできなかったで、家でも考えて自分に合った大きさを決定したいです。
22	かたがみ	今日かたがみをつくりました。でも、困ったのが入れたいものを合わせて線を書いて、ホッチキスをしたときに、何かもう少し小さくしたいなと思いました。
24	大きさ	今日は、新聞紙で型紙をつくりましたが、横長ではなくて縦長にしようと思います。
25	自分に合ったバックさがし	私に合ったバックは、入れたいものも入る、目的に合ったバックです。「自分に合った」バックを作れるといいです。
26	もう1回チャンスを！	私は、物の出し入れがしやすいように大きめにしたけど、ブカブカすぎるので、少し小さくしようかなと思いました。
27	入れる物で変える	バックに入れるものによってバックの大きさや、形などが決まっていくことがわかりました。横向きに入れることしか考えていなかったけれど、たて向きに入れることもできることがわかりました。
28	6cm・7cm	教科書を入れてぴったりじゃなければ良いだろうと思っていただけ、水筒の厚さがあってうまく入らなかったで、今度は厚さとたてと横を考えて作るぞ。
29	まち	私は始め、まちのことを考えていなかったのが原因で、少し高さが短くなってしまいました。本番はあと少しだけ、たてを高くしたいです。
30	大きさ	私にとって入れるものよりも5cm大きいのがちょうど良く使いやすいそうだった。
31	大きさ	でかすぎてもだめ、小さすぎてもダメ、もっと自分に合ったバックに改ざんしていききたい！
32	マチ	マチの大きさを考えて作ろうとしたら、予想以上に大きくなったので、中の大きさを少し縮めて製作したいです。

題材の授業開始当初の段階では、P型シートの「どうして製作をするのだろう」（表面A）の問いに、漠然としか学習対象を捉えられていない児童が見られ、「自分好み」等に11名が言及していたが、全9時間の題材終了後の同じ問い（P型シート表面B）に対しては、資料7に示したように「自分好み」に加え、「自分に合った」や「自分にとって使いやすい」との記述が13名に見られるようになった。

当初「自分の好みのものを製作するため」としていた児童2が、終了後には「・自分の好みに合わせるため ・自分にとって使いやすいものを作るため」と製作を捉える視点を広げていた。児童22も当初「自分好みにするため。ポケットとか糸と布の色とか大きさとか形とか」と好き嫌いの意味合いが強かったが、授業後には「模様、形、大きさ、バックの特徴を自分が使いやすいようにするため。」と製作を自分の生活との関わりで捉え直している。「自分に合ったものを作ることで、便利になり、使うと嬉しい気持ちになり、長く続くこともできるから。」（児童12）、「自分に合ったものを作ることで大切にしたいと言う気持ちが芽ばえるから・作ったことで世界に1つの自分のバックになるから。」（児童19）と記述している。

人によって好みが多様であることに目を向けることも、自分がどのような生活を営んでいくか考える上で大切であるが、それだけでなく布袋の製作学習をより広く豊かな衣生活文化を賞味し実感する場としていくことが求められる。

授業当初に記述された「自分好み」は、自分の好き嫌いにとどまっていることが懸念されたが、その後の授業を通して、自分の生活との関わりで製作活動を捉えられるようになったことは、人々が自らの暮らしをより良いものにしようと工夫を重ね営んできた衣生活での製作活動に、児童が周縁的に参加<sup>5)</sup>する形で関わることができたといえよう。そのような学びを通して衣生活文化に働きかけることのできる存在として自己を感じることもできるのではなかろうか。製作学習はもっと広汎な暮らしの営みまで視野に入れた展開が可能といえる。

## 5. 今後の課題

本研究においては、教師の働きかけや場の設定によって、製作のみへの着目にとどまらない製作学習が実現でき、その学びの過程をP型シートの活用によって容易に把握可能であることが示された。その一方で、P型シートの最後の問いが、今回は小学生向けに改編され「Q：今回の学習をとおして、どんなことを考えましたか？また、どのようなことができるようになりましたか？」となっており、記述の多くは授業の感想であった。本来P型シートは、自らの学びの変化に目を向けることを意図し、授業開始当初の「どうして製作をするのだろう」（表面A）と授業後の同じ問い（表面B）を比較して、「気づいたことや考えたことはありますか？」（表面C）と問う形式としている<sup>6)</sup>。自らの学びを振り返り、学びを調整できるようにしていくためには、小学生であっても自らの変化を意識化できる問いにした上で、教師が働きかけていく必要があった。

他方、P型シートは、一つの題材における学習者の学びの実態把握に加えて、小・中学校間、さらには高校との連携を図っていく上でのツールとしても開発されたものであった。本実践で児童が記入したP型シートは、小学校の教師が中学校に申し送っていく。と同時に、小学校の教師が指導内容の履歴を記入した「授業記録用紙」<sup>7)</sup>も中学校の教師に届けることで、既習内容の把握を行えるようにしている。小・中学校双方の教師がP型シートと「指導記録用紙」

資料7：題材終了後の記述内容（P型シート【表面】B）

Q.どうして製作をするのだろう（P型シート表面B）	
1	欠席
2	・自分の好みに合わせるため ・自分にとって使いやすいものを作るため
4	自分のオリジナルのものを作って気に入るため。
6	僕みたいに必要なものを作って、穴埋めし活用し生活を豊かにするため。
8	自分の不便を解消してより良い生活をするため。
9	売っているものを買うより、自分の好みに合ったものを自分で作る方が便利だから
11	・自分の好みのもので作れるため。 ・自分に合ったものを作るため。
12	自分に合ったものを作ることで、便利になり、使うと嬉しい気持ちになり、長く続くこともできるから。
13	自分が使いやすいように作れたりするから。自分で作ると愛着がわくから。
14	自分のしょうらいのためになれて大人になって生かすため。
16	大人になったときに役立てるため。
18	将来安くものを作るため。
19	・自分に合ったものを作ることで大切にしたいと言う気持ちが芽ばえるから。 ・作ったことで世界に1つの自分のバックになるから。
20	自分にとって使いやすいバックを自分で安く作るため。
21	目的に合い、自分に合ったものを使えるようにするため。
22	模様、形、大きさ、バックの特長を自分が使いやすいようにするため。
24	自分で使いたいものを作るために工夫やそこに行き着くまでの楽しさがわかるから。
25	・自分が作ったもので生活できるようになるため。 ・自分の好みで製作することで「楽しさ」や「達成感」を学ぶため。 ・自分に合った「特別」「宝物」となるようなものを作るため。
26	・自分の「好き」や「こだわり」をつめ込められるから→自分に合っている！自分らしさが出る！ ・こわれたら治すことができる。・「こんなのが欲しいなあ」を実現できる。
27	生きていくために必要だから。また便利になるから。
28	自分の好みで自分だけの世界に1つのバックが作れるから。 また調整がしたければ、使いやすいように自分に合ったものが作れるから。
29	しょうらい、布(バック)が破れたときに自分でぬえるようになっておけば、わざわざ捨てなくても使い続けることができるから。
30	世界に1つだけのバックを作って、自分が好きなものに囲まれて生活するため。
31	自分の好きなサイズで好きなガラを使ったバックを作れた。自分の使いやすいものを作れるから。
32	自分のこだわりを最大に表せる、自分お気に入りのものを作れるから。

を共有し、中学校の教師も、小学校の教師が“指導した”とする内容のみならず、児童が“学んだ”とする内容とを突き合わせて参照することにより、両者のギャップに注意を払いながら、中学校での授業では特にどこに重点を置いて指導すべきであるかが把握できよう。その上で授業構想及び展開をしていくことが、学びを深めていく上での今後の課題といえる。今回は教師と児童の間に大きな齟齬は見られなかったが、製作中心にしない衣生活学習が小学校で展開されたことをふまえて、中学校でもそれを継続し、製作過程で“自分にとっての意味”を十分に意識できる学習としていくことが求められる。

#### IV. 注記

- 注1) 例えば、堀哲夫.(2013). 教育評価の本質と問う一枚ポートフォリオ評価OPPA (pp.20-21). 東京：東洋館. 及び中嶋他.(2016). 基礎力・思考力・実践力の高まりを評価できるOPPAを取り入れた授業の構築と実践. 宮崎大学教育学部附属中学校, 平成28年度研究紀要, 40-45, など
- 注2) ヴィゴツキー, L.S.(1931). 文化的・歴史的精神発達の理論. (2005). 学文社で、「即自」, 「対他」, 「対自」が示されている。
- 注3) 佐伯胖.(2007). 共感. ミネルヴァ書房. p7. で、「即自」, 「対他」, 「対自」を繰り返すことに言及

#### V. 引用・参考文献

- 1) 伊波富久美, 山村季代.(2018). 小・中・高校の学びをつなぐ「指導記録用紙」と「ポートフォリオ型ワークシート」の開発—住生活の内容を例として—. 宮崎大学教育学部紀要, 第91号, 11-25.
- 2) 伊波富久美, 福良維素子, 山村季代他.(2018). “ポートフォリオ型ワークシート”を活用した小・中・高校の連携に向けた試み—中学校・住居学習を中心に—. 宮崎大学教育学部紀要, 第91号, 1-10.
- 3) 伊波富久美. 「わかったつもり」を問い直す家庭科での学び. あいり出版. 2014.
- 4) 前掲書1) 及び2)
- 5) ジーン・レイブ, エティエンヌ・ウエンガー.(1993). 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—. 東京：産業図書.
- 6) 前掲書1) 及び2)
- 7) 前掲書1)

(2024年5月14日 審査終了)